

# 小学校 特別活動

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生活についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の目標は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、特別活動において育成することを目指す資質・能力の三つの柱に沿って整理された。

#### ◆特別活動における三つの視点

「人間関係形成」	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
「社会参画」	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点
「自己実現」	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

特別活動全体を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合っ合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことの重要性を明記した。

#### ■各活動における内容の改善・充実のポイント

学級活動	<p>○小学校段階から学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりを明確化。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまでの学級活動(2)「<u>日常生活や学習への適応及び健康安全</u>」の内容が、学級活動(2)「<u>日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全</u>」と学級活動(3)「<u>一人一人のキャリア形成と自己実現</u>」に分けて整理されました。</p> </div> <p>○学習の過程として、「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」については、「<u>集団としての合意形成</u>」を、「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」については、「<u>一人一人の意思決定</u>」を行うことを明示。</p>
児童会活動	<p>○内容の(1)を「<u>児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営</u>」とし、児童が主体的に組織をつくることを明示。</p> <p>○異年齢集団活動等の社会参画を重視。</p> <p>○運営や計画は主として高学年の児童が行うこととしつつ、学校の全児童が主体的に参加できるよう配慮することを明示。</p>
クラブ活動	<p>○従来に引き続き、同好の異年齢の児童が共通の興味・関心を追求する活動であるとした上で、<u>児童が計画を立てて役割分担し、協力して楽しく活動するもの</u>であることを明示。</p>
学校行事	<p>○小学校における自然の中での集団宿泊活動を引き続き重視。</p> <p>○健康安全・体育的行事の中で、<u>事件や事故、災害から身を守ること</u>について明示。</p>

## ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

特別活動の深い学びとして、児童が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視。

### ◆「主体的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるようにする事が大切

### ◆「対話的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 学校や学級における集団や自己の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要
- 様々な関わりを通して感性を豊かにし、よりよい合意形成や意思決定ができるような資質・能力を育成していくことが大切

### ◆「深い学び」を実現するための授業改善のポイント

- 「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切
- 基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切

## ③見方・考え方について

- ◇特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」である。
- ◇「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校で評価の観点を定めます。



## (3) 評価について

### ①評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

### ②「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」の作成の具体的な手順

**手順1** 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

※その際、「評価の観点」をより具体的に設定することが考えられる。

◇社会参画に重点化を図った例

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級・学校生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。 学級会等における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	学級・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級・学校の生活の改善・充実を図るために、多様な他者のよさを生かし、協働して実践しようとしている。なりたい自分を目指し、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

**手順2** 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

◇学級活動（1）において育成することが考えられる資質・能力の例

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

**手順3** 【観点ごとのポイント】を踏まえ、**手順1**、**手順2**で設定したものをもとに、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

◇観点ごとのポイント

- 「知識・技能」
  - ・ 話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、文末を「～理解している、～を身に付けている」として評価規準を作成する。
- 「思考・判断・表現」
  - ・ 話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、文末を「～している」として評価規準を作成する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」
  - ・ 自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、文末を「～しようとしている」として評価規準を作成する。
  - ・ 目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。

◇内容のまとめり

- 学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画  
 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- 児童会活動  
 クラブ活動
- 学校行事・・・(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、  
 (4) 遠足・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事



学級活動については、発達の段階に即し、低・中・高学年ごとに評価規準を作成することが考えられます。その際、学習指導要領第6章第2〔学級活動〕3(1)に示された「各学年段階における配慮事項」（小学校学習指導要領解説特別活動編 P76）や、「学級活動（1）の発達の段階に即した指導のめやす」（同 P78）を参考にします。

◇学級活動「（1）学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準（例）

評価の観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
第一学年及び第二学年の例	みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、 <u>仲よく助け合っ実践している。</u>	学級生活を楽しくするために、 <u>見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、割を意識して集団活動に取り組もうとしている。</u>

第三学年及び 第四学年の例	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を <u>理解</u> している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、 <u>協力し合って実践</u> している。	楽しい学級生活をつくるために、 <u>見通しをもったり振り返ったり</u> しながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
第五学年及び 第六学年の例	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を <u>理解</u> している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、 <u>信頼し支え合って実践</u> している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、 <u>見通しをもったり振り返ったり</u> しながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

\_\_\_\_\_のように、それぞれの観点ごとにポイントを踏まえた文末とします。  
 \_\_\_\_\_のように、言葉が少しずつバージョンアップします。  
 \_\_\_\_\_のように、主体的に学習に取り組む態度では、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。



児童会活動、クラブ活動、学校行事については、低学年、中学年、高学年に分けずに、最終的に高学年で望む児童の姿をイメージして評価規準を作成することが考えられます。

◇児童会活動の評価規準（例）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
楽しく豊かな学校生活をつくる児童会活動の意義について理解するとともに、活動の計画や運営の方法、異年齢集団による交流の仕方などを身に付けている。	児童会の一員として、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく形成したりして主体的に実践している。	楽しく豊かな学校生活をつくるために、 <u>見通しをもったり振り返ったり</u> しながら、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、児童会の活動に積極的に取り組もうと <u>している</u> 。

◇学校行事（1）儀式的行事の評価規準（例）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解し、厳粛な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けている。	学校や学年の一員として、よりよい学校生活にするために、新しい生活への希望をもって、集団の場において規則正しく <u>行動</u> している。	厳粛で清新な気分を味わい、儀式的行事を節目として、 <u>見通しをもったり振り返ったり</u> しながら、これからの生活への希望や意欲を高め、儀式的行事に積極的に取り組もうと <u>している</u> 。

③指導要録への記入について（例）【年度当初】

		特別活動の記録						
内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能 ○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度							
児童会活動								
クラブ活動								
学校行事								

・各学校で設定した観点を記入します。  
・全学年に共通した評価の観点を設定します。

※評価の観点の変更がある場合を想定して余白を設けておきます。

※指導要録の「特別活動の記録」に○印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができる。

年間指導計画、各活動・学校行事の年間指導計画を見直し、評価体制を確立しましょう。児童のよさや可能性を見取り、評価を充実させることが、資質・能力の育成につながります。



## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」(第5学年)

(1) 題材名 「6年生に向けて」

(2) 学級活動(3)で育成を目指す資質・能力

- ◇働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。
- ◇自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。
- ◇現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

(3) 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもちたり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

1単位時間の指導計画においては、評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられます。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられます。

(4) 指導と評価の計画

①事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
5年生のこれまでを振り返ったり、6年生へ向けた期待感を想起したりするアンケートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「6年生に向けて」のアンケートを用意し、5年生の生活を振り返った上で、6年生に向けての期待感を想起できるようにする。</li> <li>・「キャリア・パスポート」等を活用し、これまでの自分の成長に気付けるようにする。</li> </ul>	◎アンケートに答えることで、5年生の生活を振り返ったり、6年生に向けての期待感を抱いたりして、学習への見通しをもとうとしている。 【主体的態度】〈アンケート〉

アンケートを評価に活用する場合は、アンケートに記述欄を設けるなどして、本題材に照らして自分の生活を振り返り、改善へ向けての見通しをもっているかを見取ることが考えられます。

②本時のねらい

最高学年になっていくための見通しをもち、そのために必要なことについて話し合い、自分に合っためあてを立てて実践できるようにする。

③本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ (5)	1 アンケート結果から、6年生になるに当たっての自分たちの思いについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果をもとにして、6年生に向けて期待感を抱いていることに気付けるようにする。</li> <li>・「キャリア・パスポート」をもとに自分たちの成長を想起できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の表</li> <li>・「キャリア・パスポート」</li> </ul>	

なりたい6年生に向けて、自分が実践することを決めよう

<b>展開</b> <b>さぐる</b> (10)	2 6年生になったら、どんなことをがんばっていきたいのかについて話し合う。 ・委員会活動 ・クラブ活動 ・運動会 ・更に成長したい	・6年生が活躍していた場面などの写真を活用し、最高学年として自覚と責任をもって行動する場面が増えることに気付けるようにする。	・6年生が活動する様子の写真
	3 6年生からのメッセージ映像を見る。	・6年生からのメッセージ映像を用意し、「6年生としての心構え」や「自分たちが努力してきたこと」、「励ましのメッセージ」などについて語ってもらうことで、5年生が6年生へと成長していくために必要なことに気付くことができるようにする。	・6年生からのメッセージ映像
	<b>【10の視点】⑥学び合う活動の充実</b> 話し合いを通して、他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることにつながります。	・6年生からのメッセージ映像を用意し、「6年生としての心構え」や「自分たちが努力してきたこと」、「励ましのメッセージ」などについて語ってもらうことで、5年生が6年生へと成長していくために必要なことに気付くことができるようにする。	・6年生からのメッセージ映像
<b>見つける</b> (20)	4 どんな6年生になりたいか、そのためにどんなことが必要かを話し合う。	・学習カードを用意し、一人一人が考えた上で話し合うことができるようにする。 (グループ→全体)	・学習カード
<b>終末決める</b> (10)	5 これから6年生になるまでに自分が実践することを決め、伝え合う。	・ここまでの話し合いで出された意見などを生かして、自分に合っためあてを学習カードに記入するよう伝える。	・学習カード

6年生の姿やメッセージから考えたことをもとに話し合っているか、さらに話し合ったことをもとに自分のめあてを立てているかなどを見取することも考えられます。

◎なりたい6年生の姿を明確にし、そのために必要なことについて考え、前向きに話し合っている。  
 ◎話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。  
**【思考・判断・表現】**  
 〈観察・学習カード〉

学習カードを活用して評価の参考にすることも考えられます。例えば、「知識・技能」の評価をする場合は、学習カードの項目に「6年生に向けて、自分たちに必要なこと」を記載し、その記述から、よりよい自分へ向けて努力している意義の理解等を見取することも考えられます。

#### ④事後の指導

<b>【10の視点】</b> <b>⑧学習をふり返る活動の設定</b>	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 <b>【観点】</b> 〈評価方法〉
実践を振り返ることで、実践のよい点や改善点に気づき、次へ生かそうとすることにつながります。	意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	◎意思決定したことを実践している。 <b>【思考・判断・表現】</b> 〈観察〉
	実践について振り返る。(年度末までの各月末の帰りの会など)	・振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりできるようにする。	◎実践を振り返り、現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている。 <b>【主体的態度】</b> 〈学習カード〉

・各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録しておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮しましょう。  
 ・特別活動の評価は、「指導に生かす評価」が大切です。学習カードに担任のコメント欄を設けるなど、児童のよさを認め、伸ばすようにすると効果的です。



# 中学校 特別活動

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

特別活動の目標は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、特別活動において育成することを目指す資質・能力の三つの柱に沿って整理された。

#### ◆特別活動における三つの視点

「人間関係形成」	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
「社会参画」	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点
「自己実現」	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

【学級活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「(1)学級や学校の生活づくりへの参画」の指導の充実を図るため、(2)、(3)の内容を、各項目の関連に配慮して整理した。</li> <li>○学級活動(1)は「<u>集団としての合意形成</u>」、学級活動(2)及び(3)は、「<u>一人一人の意思決定</u>」を行うことを明示した。</li> <li>○キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととした。</li> </ul>
【生徒会活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校で身に付けた資質・能力を基礎に、<u>生徒の自発的・自治的に活動する態度や能力</u>を高めていくことが必要である。</li> <li>○いじめの未然防止などの問題を生徒会として取り上げる際には、学校として、<u>生徒の主体的な活動</u>を大切にしながら、学校と家庭や地域との連携・協力を積極的に進め、その解決に当たることが必要である。 ただし、いじめを認知した場合は、いじめ防止対策推進法に則り対応のこと。</li> </ul>
【学校行事】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事の内容(1)儀式的行事(2)文化的行事(3)健康安全・体育的行事(4)旅行・集団宿泊的行事(5)勤労生産・奉仕的行事は、改訂後も変更なし。</li> <li>○健康安全・体育的行事の中で、事件や事故、災害等から身を守ることについて明示した。</li> <li>○中学校における<u>職場体験等の体験活動</u>を引き続き重視した。</li> </ul>

## ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視する。

### ◆「主体的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 自己の現状に即して、課題を見いだしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるようにすることが大切

### ◆「対話的な学び」を実現するための授業改善のポイント

- 学級や学校における生活上の課題を見だし、解決するために意思決定したり、合意形成を図ったりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要
- 様々な関わりを通して感性や思考力、実践力を豊かにし、よりよい意思決定や合意形成ができるようになることも重要

### ◆「深い学び」を実現するための授業改善のポイント

- 「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切
- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切

## ③見方・考え方について

- ◇特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」である。
- ◇「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

## ④移行措置について

特別活動については、教科書の対応を要するものではなく、平成30年度から新学習指導要領によるため、移行措置はなし。

学級活動及び生徒会活動の内容項目の一部が変更されました。また、内容が統合されたところもあります。具体的には、学級活動(1)～(3)で17項目あったものが11項目に、生徒会活動が5項目から3項目に減っています。ただし、項目は減りましたが、なくなった内容はありません。



## (3) 評価について

### ①評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。
<p>特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校で評価の観点を定めます。</p>		





## ②「評価規準」を作成する際の手順について

**手順1** 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

◇社会参画に重点化を図った例

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級や学校、社会生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。 話し合い活動における合意形成の図り方などの技能を身に付けている	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級や学校、社会生活の改善・充実を図るために、相互のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 現在及び将来の自己実現に向けて、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

**手順2** 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

**手順3** 観点ごとのポイントを踏まえ、**手順1**、**手順2**で設定したものをもとに、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

◇観点ごとのポイント

- 「知識・技能」
  - ・話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。
  - ・学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認する。
  - ・文末を「～を理解している。」「～を身に付けている。」とする。
- 「思考・判断・表現」
  - ・話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。
  - ・「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとする。
  - ・文末を「～している」「～することができる」とする。
- 「主体的に学習に取り組む態度」
  - ・自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。
  - ・身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述する。
  - ・各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。
  - ・文末を「～しようとしている」とする。

## ◇内容のまとめ

学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画  
 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

生徒会活動

学校行事・・・(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、  
 (4) 旅行・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

## ◇学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の評価規準（例）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだすことができる。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、 <u>見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。</u>

\_\_\_\_\_のように、それぞれの観点のポイント踏まえた文末とします。

\_\_\_\_\_のように、「主体的に学習に取り組む態度」では、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。



## <学級活動（1）以外の評価規準の設定例>

## ◇学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。	現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見いだすことができる。主体的に学習に取り組む、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え実践している。	現在の生活や学習を振り返ったり、将来の在り方生き方を <u>見通したりしようとしている。</u> 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を <u>図ろうとしている。</u>

◇生徒会活動の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。全校の生徒をもって組織する大きな集団での活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだすことができる。全校の生徒をもって組織する大きな集団における課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしている。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活改善を図ろうとしている。 3年間や全校という視野で見通しをもったり振り返ったりしながら、よりよい学校生活を築こうとしている。

◇学校行事「(3) 健康安全・体育的行事」の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守ることの意義を理解している。心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守るなどに必要な行動の仕方などを身に付けている。体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けている。	自己の生活を振り返り、健康、安全、防災、運動や体力の向上に関する課題と解決策について考えている。自他の健康や安全について他者と協力して、適切に判断し実践することができる。運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができる。	生涯にわたって、心身ともに健康で安全な生活を実践したりしようとしている。運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとしている。見通しをもったり振り返ったりしながら、健康安全・体育的行事に積極的に取り組もうとしている。

③指導要録への記入について（例）【年度当初】

特別活動の記録					
内容	観点 / 学年	1	2	3	
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で設定した観点を記入します。</li> <li>・全学年に共通した評価の観点を設定します。</li> </ul>
生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○	○	
学校行事	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				

※評価の観点の変更がある場合を想定して余白を設けておきます。

※指導要録の「特別活動の記録」に○印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができる。

年間指導計画、各活動・学校行事の年間指導計画を見直し、評価体制を確立しましょう。児童のよさや可能性を見取り、評価を充実させることが、資質・能力の育成につながります。



## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

### 学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」(第2学年)

- (1) 題材「体験活動を学校生活につなごう」  
 (2) 学級活動(3)で育成を目指す資質・能力

- ◇社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能が身に付いている。
- ◇現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、自己の将来について、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くことができる。
- ◇将来の生き方を描き、現在の生活や学習のあり方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとしている。

### (3) 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考え、自分らしい生き方の実現を図るために、必要な知識及び技能を身につけている。	自分らしい生き方の実現に向けて、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだすことができる。 主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献すること、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、意思決定して実践している。	将来の生き方を見通したり、これまでの生活や学習を振り返ったりしようとしている。 働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己表現を図ろうとしている。

### (4) 指導と評価の計画 <一連の活動と評価>

	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学校行事始業式後	「一年後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・学校教育目標(キャリア教育目標)、学年目標から自分のこの1年間の目標を設定する。 ○活動 ・「キャリア・パスポート」に1年間の目標を記入する。	学校や学年教育目標を踏まえ、個人目標の設定方法を身に付けている。	1年間でなりたい自分を表現している。	自主的に「キャリア・パスポート」を活用して自己の学びを見通し、振り返ろうとしている。
学級活動	「4ヶ月後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・前回立てた1年間の目標から、1学期の目標を設定する。 ○活動(個人) ・キャリア・パスポートに1学期の目標を記入する。 ・1学期の目標を掲示する。	自分の1年間の目標を踏まえ、1学期の個人目標の設定方法を身に付けている。	自分の1学期の目標を表現している。	1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。

学校行事	「自分を知ろう」 ○ねらい ・ 職業適性検査を通して自分の特性を知る。 ○活動 ・ 職業適性検査を受ける。 ・ 職業と適性の関係を知る。	検査の結果を参考に にして、自分の適 正や興味を理解し ている。		自分の適性や興味 から職場体験活動 への見通しをもと うとしている。
学校行事	「体験先の職場を選択しよう」 ○ねらい ・ 根拠をもって体験する職場 を選択する。 ○活動 ・ 自分の適性や興味を確認す る。 ・ 働く意義を確認する。	働く意義や自分が 社会で果たしたい 役割を理解してい る。	働く意義や自分が 社会で果たすべき 役割について考 え、中学校におけ る職場体験活動で 何を学びたいのか を、根拠をもって 説明している。	
本時	「体験活動を学校生活につなごう」 ○ねらい ・ 職場体験活動で学んだこと をまとめ、今後の学校生活 に生かす。 ○活動 ・ 職場体験活動レポートをま とめ、担当教員よりコメン トをもらう。		職場体験活動で学 んだことを自己と 関わらせながら 「キャリア・パス ポート」に表現し ている。	担任からの助言 や友人の声を参 考に、職場体験 活動の経験を学 校生活に生かそ うとしている。
学級活動	「1学期を振り返ろう」 ○ねらい ・ 職場体験活動を含め、1学 期の活動を振り返る。 ○活動(個人) ・ 1学期の活動についてまと め、2学期の目標を考え る。		職場体験活動を含 めた1学期を振り 返し、表現してい る。	1学期を振り返 ることにより、2学 期への見通しをも とうとしている。

※これ以降、学期の始めや終わり、学校行事や学級生活において、継続的、系統的に生徒の変容を見取ることが大切です。



### (5) 本時の授業の展開例

#### <目指す生徒の姿>

- ・ 職場体験活動で学んだことを「キャリア・パスポート」に表現している。
- ・ 担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

	生徒の活動	○ 目指す生徒の姿 指導上の留意点
導 入	職場体験活動を振り返ろう 職場体験活動のしおりや「キャリア・パスポート」 を読み返す。	
		<p><b>【10の視点】①魅力的な課題・教材の提示</b> 職場体験のアンケート結果をグラフ等で表し視覚化することで、生徒一人一人が自分自身の問題であると捉えることができるよう工夫します。</p>
	(個人で) ▶適性検査を基にした職場体験活動のねらいと、実際の職場体験活動の取組は合っていたかを振り返る。	○自分の適性や興味から設定した目標と実際の職場体験活動の活動が合致していたかを判断している。 <b>【思考・判断・表現】</b>

職場体験によって、自分の適性を知ったことが書かれているかを見取る。

	<p>(グループでの話し合い活動により)</p> <p>▶実際の職場体験活動中に学んだこと、職場の方とのやりとりを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【10の視点】⑥学び合う活動の充実</b> 各グループの発表を聞き、それに対する意見を述べ合うことで、学んだことを整理するためのヒントとします。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【10の視点】⑤説明・発表の機会の充実</b> なぜそうなのか、そのためにはどうしたらよいか考え、理由を述べる場の設定が必要です。</p> </div>	<p>※「キャリア・パスポート」を見直す。</p>
展	<p>(個人で)</p> <p>▶職場体験活動の感想をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【10の視点】⑧学習を振り返る活動の設定</b> 学級通信等を家庭に配布したり、保護者会等で伝えたりするなど、家庭との連携を図り、保護者の理解を得ることも大切です。</p> </div>	<p>※「キャリア・パスポート」を記入する。</p> <p>○職場体験活動で学んだことを整理している。【思考・判断・表現】</p> <p>※ 担任は机間指導しながら、自己理解、社会マナーやルール、進路決定や将来設計、役割等の視点からコメントする。</p> <p>○職場体験活動の経験が反映されているか。</p> <p>※応援シートを使い、互いのよさやがんばりを相互評価する。</p>
開	<p>(個人で)</p> <p>▶職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>(グループでの話し合い活動により)</p> <p>▶応援シートを使いながら、職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>(個人で)</p> <p>▶担任のコメントや応援シートを参考に、これからの学校生活で伸ばしたい力を意思決定し、記録する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>記述から職場体験活動で学んだことを学校生活で生かそうとしていることが分かるか、見取る。</p> </div>	<p>○担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。【主体的態度】 (「キャリア・パスポート」、観察)</p> <p>※「キャリア・パスポート」に記入する。</p>
終末	<p>▶体験活動と学校生活のつながりと「キャリア・パスポート」を作成することの意義を確認する。</p>	<p>※具体的な場面(学校行事や進路選択)をあげ、生徒がイメージしやすいようにする。</p>

生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにするために、活動の結果だけでなく活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒の良さを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。そのため、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようなポートフォリオ的な教材などを活用して、自己評価や相互評価するなどの工夫が求められます。

